



T E N T I • T O D A Y			1
会員の広場 「どなたかいませんか」「見通し不明」			2
連載作品			3
隨 想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ— 14. ニュートン - 力とはなにか	伊那 閑歩	3
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語（13） <東山山麓4毘沙門堂門跡>	大竹 漠洲	7
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」「すどう美術館」		1 1
事務局			1 2

\*\*\*\*\*

## T E N T I    T O D A Y

\*\*\*\*\*

先週の初めから微熱があり怠いのでおとなしくしていましたが、2～3日前から咳も出るので、近所の医者に行きました。<怠さは高齢者につきもの>と医師の診断、一応薬をくれましたが、調子は今一です。

\*\*\*\*\*

「年金改革」について「医療費負担の上限改定」と高齢者に厳しい法案が出てきました。「強い日本の実現」を標榜する安倍さんへの期待は高いのですが、未だその姿、形についての説明がありません。選挙優先の場当たり的政策が続くと、「強い日本」への期待が、疑問、不信につながりそうです。

\*\*\*\*\*

高校仲間の丸山さんから、趣味の古代文字・作品展の案内を貰い、先日、有楽町の糖業会館へ出かけました。今回は、中国古代書家の書179文字を掛け軸にしてありましたが、179字を一字一字書き上げる気力、体力に感嘆しました。大いに刺激を受けました。

\*\*\*\*\*

所用で来日した上海の俞さんと先日会いました。最近の中国の若者は、一流大学に入っても勉強しないと嘆くことしきり、また日本の、「こだわり」「一芸に打ち込む」「匠の技」というようなものが中国にはないと残念がっていました。「真田丸」が日本で何故人気があるのかと聞かれて困りましたが、満蒙開拓関連の資料が欲しいと言わされていましたので、「還らざる夏」を進呈しておきました。

\*\*\*\*\*

先日、満蒙開拓記念館を両陛下が訪問されたとの報道がありました。展示施設としては小さいように思いますが、そこに隠された暗い過去の事実は、大変大きなものがあります。記念館のある阿智村の満蒙開拓団は数次に分か

れて渡満、最後の開拓団・約150名は、昭和20年5月、何も知らされずに満州へ渡り、多数の命が無駄にさせられました。

\*\*\*\*\*

3年ほど前まで、使用されていた方から「アルガンオイルまだ扱っていませんか」との電話をいただきました。アルガンオイルがなくなることはありませんが、天地でのご提供が、いつまで続けられるか不明です。

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

### <どなたかいませんか>

自閉症の症状がある子供をもった親たちが立ち上げた障害者施設です。現在150名以上の収容者がいますが、職員が不足して困っています。職員の待遇は、全国レベルで良い方です。

社会福祉法人 菜の花会（千葉県成田市名木511-15）  
理事 島田 豊

島田さんは、元銀行マン。ご家族総出で支援、施設の立ち上げ、運営にも多大の尽力をされてきています。

\*\*\*\*\*

### <見通し不明>

トランプ真大統領の出現は、世界の多くの人にとって青天の霹靂の感があったと思われます。

「トランプラーは健在か？そんなの分かりませんよ」。あるストラテジスト氏は、うんざりした様子だ。米大統領選後の円安・株高を見できていた専門家はほぼ皆無だ。「プロとして予想を公表するのが怖い」と胸の内を明かす。

という記事が、29日の日経新聞・朝刊・スクランブルにありました。今後は、専門家ですら予測できない相場の展開になりそうです。

トランプ氏の米国が、どのような形、姿を作り上げようとしているのか、まだ予測不能のようですが、戦後、米国は、共産主義と敵対し、ソ連邦を崩壊させ勝利しましたが、その後の米国は、強くならずむしろ世界で力を失いました。

新大統領の<強い米国を取り戻す>を実現するには、<強いライバル>の存在が必要です。(仮想)ライバルを浮き上がらせるような政策、果たしてどんなものなのか、そして実現できるのかどうか、日本をはじめ多くの国が固唾をのんで見守っているに違いありません。2強か、3強か、4強か・・・

安倍首相は、日米同盟を高らかに宣言していますが、日本が「強い国」の一角を占めるのか、あるいは、日本が米国の一州になるのか、どちらにしても非常に気になります。

日本の株式市場では、ゼネコン株が急騰しています。持続的な景気回復のために公共投資をと、官民挙げて邁進してきましたので当然の帰結ですが、近視眼的で分かりやすい日本の政治、経済を見てとれて、難しく考えずに済みます。国際情勢が激変すると日本はどうなるか・・・。(津田)

\*\*\*\*\*

## 連載作品

\*\*\*\*\*

### 天のわざ、地のほまれ —地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 関歩

#### 14. ニュートン－力とはなにか

イスラエルの気鋭の歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリ（1976-）は著書『サピエンス全史－文明の構造と人類の幸福』（柴田裕之訳、河出書房新社）において「近代科学は“*ignoramus*（私たちは知らない）”というラテン語の戒めに基づいている」と主張する。さらに「知識を獲得するうちに、それが誤りであることも受け入れる。いかなる概念も、考えも、学説も神聖不可侵ではなく、異議をさしはさむ余地がある」というのだ。

そして「近代科学は観察結果を収集し、数学的な解析をおこなって、観察結果を結合し包括的な説にまとめあげるのだ。決して、一般的な学説が先にあってそれを個々の事案に適用するのではなく、その逆なのである。そして、科学革命の発端は、人類は自らにとって最も重要な疑問の数々の答えを知らないという、重大な発見だった」とハラリはいう。

アレクサンドリアのエウクレイデス（ユークリッド、BC330-BC260ごろ）をはじめとして、昔から数学や幾何学はそれなりに発展していて、論理的に一貫した知識を蓄積してきた。数学や科学にかんする著書は現代においてもなおエウクレイデスの組織だった形式（書き方）にならっているところが多い。

一方、アルキメデス（BC287-BC212ごろ）は「浮力の法則」を発見したことでの名が知られているが、自然観察によって得られる物理法則の発見は散発的であって、なかなかひとつの体系としてまとまらなかつた。そのためエウクレイデスの『原論』のような包括的な自然科学の教科書はできなかつた。

日本でも江戸時代に「和算」が発達し、アイザック・ニュートンと同じ年に誕生した和算家一関孝和（1642-1708）がよく知られている。かれは、素朴な方法を用いて、円周率を小数点以下11桁まで計算し、3.14159265359を得ている。また代数方程式の根（解）の近似値を求める際に、ニュートンの方法を用いているので、すでに微分法を知っていたとされているが、かれはその演算の重要性に気付くことなく、体系化できなかつたと思われる。しかも、日本の和算家はせっかく得た数学の知識を自然現象の記述に使おうとはしなかつたため、日本では（中国でもインドでもイスラム諸国でも）物理学は発展しなかつたという（長沼伸一郎「経済数学の直観的方法」講談社ブルーバックス）。

さて今回の主題は「力」について、これがそもそも力学の核心的概念であるにもかかわらず、ガリレオの時代には「力」をどのように表現（定義）してよいかわからなかったようである。物が動いているのを見れば、素朴にその物に力が作用しているように見える。力が働くだけでは物が動くわけがない、天の星も太陽も天使がたえずあと押ししているからこそ空を動きまわるのだ、という考えに人びとは長いあいだ慣れ親しんでいたにちがいない。

じつは、物には慣性という性質があるって、動いているものは、天使の後押しがなくともそのまま動きつづけるのだ。運動している物体は、その動きを止めようとする力が加わらないかぎり、運動のスピードも方向も変わることなく、真っすぐにいつまでも動き続ける、ということにガリレオは（デカルトも）気が付いたのである。それは現在、**慣性の法則**とよばれるが、ニュートンはこれを『プリンキピア』のなかで**運動の第1法則**とした（和田純夫『プリンキピアを読む』講談社ブルーバックス）：

**運動の第1法則**：すべての物体は、加えられた力によって、その状態が変化させられない限り、静止あるいは一直線上の等速運動の状態を続ける。

さらに一定のスピードで直線運動する乗り物の中でも、乗り物の動きに影響されることなく、物理的環境はなんら変わらない。つまり、海上を一定の速さで帆走する船のマストの上から物を落としても、それはまぎれもなくマストの根元に落ちてくるのだ。落下物は、船上の物理的環境にしたがっていて、落下物が船の動きからとり残されて、船の後方の海の中に落下することはない。この視点のきりかえ（座標変換、ガリレイ変換という）は、思いのほか難しいようである。昔の賢人たちも、止まっている環境と一定の速さで動いている環境とを混同したために、たとえば地球が自転しているなら空飛ぶ鳥は自転についていけないのではないかなど、奇妙な議論がくりかえされてきたのだ。

そこで次に、静止あるいは一直線上で等速運動している物体を数式として、また慣性の法則を数式で表現するにはどうしたらよいか？そのためには、運動量というものを定義しておかなければならないことをニュートンは察知した。『プリンキピア』には次のように述べられている：

**定義 2：運動量とは、速度と質量の積である。**

運動量を  $p$ 、速度を  $v$ 、質量を  $m$  と書けば、定義 2 は簡潔に  $p = m v$  と書ける（前回定義 1 には、物体の質量  $m$  が定義された）。なお速度（velocity）とは速さ（speed）に運動の方向を付け加えた物理量であってしばしば混同されるが両者は厳密に区別しなければならない概念なのだ。

前々回にいきなり微分法を持ち込んだので戸惑われたかもしれない。復習すると、こういうことであった：傾いたレールの上で物体を転がして落す。物体は、 $t$  秒後に  $y$  メートル転がり落ち、 $y = t^2$  と表せることがわかった

（5秒後には  $5^2 = 25$  m 転がりおちる）この時、この物体の  $t$  秒後のスピ

ード  $v$  は  $v = 2t$  となるのであった（5秒後のスピードは  $2 \times 5 = 10$  m/s）。距離が時間の関数として表されているとき、その任意の時間での速度を導くために微分法をつかった。物体がレールの上を転がるのではなく、垂直に落ちるときには、 $y = 4.9 t^2$ ,  $v = 9.8t$  と書けるのであった。スイスの数学者（物理学者）ジャン・ベルヌーイ（1667-1782）は定数  $g$  をもってきてこれを

$$y = \frac{1}{2} g t^2, \quad v = g t$$

と書き、その伝統を現在も引き継いでいるので、以後この書き方を採用することにしよう。垂直に落ちる落体についての測定値は、理科年表によれば

$$g = 9.80665 \text{ (m/s}^2\text{)}$$

となっていて、これは定数であるが括弧内のような組み立て単位をもち、これを重力加速度と呼んでいる。

落体の運動をひきつづき考えよう。時間  $t$  秒後の運動量  $p$  は定義 2 から

$$p(t) = m v = m g t$$

と書けることがわかる。ここで  $p(t)$  の意味は、 $p$  は  $t$  の関数であることを表す、 $p \times t$  ではないことに注意！

そこでいよいよ「力」の定義である。『プリンキピア』には、次のような記述がみられる；

**運動の第 2 法則：運動量の変化は加えられた力に比例しその力の方向を向く。**

ニュートンは、物体の運動量を変化させる作用が力である、さらにその変化率（変化÷時間）は加えられた力に比例すると考えたのだ。落体の運動については、時間  $t$  から  $t+h$  まで経過する間の運動量の変化は、普通の代数計算で

$$m g (t+h) - m g t = m g h$$

これを  $h$  で割ると  $m g$  となる。前々回の抽象的な記号で書けば、

$$\Delta p = p(t+h) - p(t) = m g h$$

となる。ここに得られたものが、運動量の変化である。ニュートンは、

**運動量の変化ではなく変化率が加えられた力に比例する**

というのである。時間  $t$  での（瞬間的な）変化率は  $\Delta p$  を  $\Delta t = h$  で割って  $h$  を 0 にもっていけば得られる（落体の場合すでに  $h$  は消えている）：

$$\frac{\Delta p}{\Delta t} \rightarrow \frac{dp(t)}{dt} = m g$$

この結果えられたものが、質量  $m$  の物体に働く（地表での）重力なのだ。質量  $m$  の物体に地球の重力が働いているとき、地表でその重さは  $m$  キログラムであるが、作用している重力は  $m g$  ( $m$  キログラム重という) なのだ。

そこで（ニュートンの）運動の第 2 法則を数式で書けば、加えられた力を  $F$  として、比例定数が 1 になるように力  $F$  の単位をきめれば

$$F = \frac{dp(t)}{dt} \quad (*)$$

と書ける。例として落体の運動の場合には

$$F = m g$$

と計算されるのであった。

力学の入門書には、質量  $m$  を微分記号の外に出して第 2 法則を

$$F = m \frac{dv}{dt} \quad (**)$$

と書いているのをしばしば見かける。質量が変化しない物体ならばこれで良いが、気象衛星の打ち上げを見てもわかるように、ロケット燃料の燃焼によって気象衛星打ち上げロケットの全質量は急激に減少していく。その場合には  $(**)$  ではなく  $(*)$  式によって運動を計算するのである。

速度の変化率を加速度という。 $(**)$  式において  $dv/dt$  が、速度  $v$  の変化率であるから、これが加速度の数学的表現である。落体の場合、

$$\frac{dv}{dt} = \frac{d(gt)}{dt} = g$$

となって、 $g$  はたまたま定数であるが、これを重力加速度といいうのである。

さて「力」の単位であるが、質量 1 キログラム (kg) の物体に、毎秒毎秒 1 メートルの加速度（これを  $1 \text{ m/s}^2$  と書く。毎秒毎秒というのは、科学用語として使われているが、組み立て単位として表現すればスッキリする？）を生じさせる力の大きさを 1 ニュートンという（1 N と書く）。リンゴ 1 個にかかる地球の重力がほぼ 1 N、横綱一白鳳には 1500 N (1.5 キロニュートン) かかっている。スペースシャトル打ち上げに使われたサターン型ロケットの推力は 34,000,000 N (34 メガニュートン)。

また、月—地球間にはこの 100 兆倍、太陽—地球間には、サターンの推力の約 1 京（ケイ 10,000,000,000,000,000,000）倍、まさに天文学的な桁違いに巨大な引力が働いているのだ。

(つづく)

\*\*\*\*\*

## ＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（11）

大竹 漠州

### 東山山麓4・毘沙門堂門跡

江戸時代の山科は、東海道の交通の要衝の地として賑わい、毘沙門堂に参詣する人びとも多く、参勤交代で往来する大名も、勤めの安全を祈願して参拝に立ち寄ったとして言われる程の大寺院でした。東海道本線が開通して、毘沙門堂門跡は、紅葉の時期を除いて、再び静寂な時間を取り戻しました。紅葉が東山全山を紅く染める頃、東山山麓の最北部に位置した毘沙門堂は、赤黄の色彩に溶け込んで、古刹の風情を見せてくれます。

今日は地下鉄東西線の開通で京都市内から至近の距離になりました。東海道本線、或いは地下鉄東西線を利用して、山科駅から歩いて20分程度で行けるようになりました。病身の旅人は車で向かっています。フロントガラスの前方に、紅葉で赤く彩られた山容が姿を見せてくれました。古い町家が建ち並ぶ狭い路地を幾度も曲がって、車は観光客の流れに遠慮するように徐行しながら進んでいます。京都の観光タクシー運転手の“おもてなし”的心遣いには頭が下がります。信者以外で、毘沙門堂門跡を訪れる人々は、秋の紅葉か春の桜の時に限られています。昔ながらの街屋は、山科の歴史の重みを感じさせます。町中の住人の姿は少なく、騒がしい町の季節が過ぎ去るのを家の中で、じつと待っている様な静寂な空気があります。

しばらく狭い路地を走った車は、琵琶湖を源とする綺麗な水の流れにかかる「安朱橋」を渡りました。傍らに毘沙門堂門跡と大きな文字が彫られた石碑が建てられています。この橋が俗界と清界との結界です。次の石橋「極楽橋」を通り過ぎれば、毘沙門堂門跡寺院です。アクセルを踏み込んだ車は、一気に急坂を駆け上り、寺院前まで運んでくれました。極楽極楽です。本来であれば、毘沙門堂門跡に参拝する道順は「極楽橋」の石橋を渡り、急な階段か坂道を歩いて上らなければなりません。病中の体には、大変な負担になっていたでしょう。

門跡寺院は格式が高く、門の数とその風格、そして築地塀の意匠も一般的の寺院と違います。「毘沙門堂」には勅使門を中心にして、左右には「医王門」と「仁王門」が設けられています。紅葉時期には医王門と仁王門は開かれて観光客に開放されています

各門から下を覗く、赤黄に彩られた紅葉のトンネルの中を、56段もある長い石段が下まで伸びていました。医王門の階段脇が受付です。

唐門の正面に位置した堂宇が本殿です。本殿全体が鮮やかな漆喰と彩色彫刻が施されていて、一見した所入母屋造りの様式ですが、何處か和様と禅様が混在して、東照宮の建築様式に類似しているのが感じられました。不思議なことに、本殿入口には、注連縄飾りがあります。」恰も神社と見間違えしそうな派手やかな色彩した堂宇で、寺院としての印象は希薄です。

余談です。当時、本殿の建築にあたって倒木材は、全て紀伊・尾張両徳川家の寄進と聞きました。多分、建築様式にも、あれこれと注文をつけたこと

に想像は難くありません。

本殿前の受付には堂宇の見取図と説明書きが掲示されていました。本殿の背後には靈殿を中心にして左側には寝殿が位置しています。寝殿の前面に「晩翠園」と呼ばれ、中心に心字池が配された回遊式庭園が設えられています。池奥の月見台には、観音堂があります。靈殿の右側にも建物があります。池に囲まれている建物の背後には、今が盛りの楓が赤く燃えている処に弁天堂が見える筈です。曇り空で、雨が心配です。

旅人は疑問の塊です。何故に門跡寺院の毘沙門堂に觀音様や弁天様が祀られているのだろうか？興味を覚えました。後程、毘沙門堂門跡のご本尊が薬師如来と知って、益々疑問が深まっていきました。毘沙門堂門跡の長い寺歴と深い関わり合いがあるのかもしれません。小さなことに気にかかる旅人は、調べてみました。想像した通りに「毘沙門堂」には、やはり幾多の歴史的な変遷が存在していました。

最初の寺院は、文武天皇の勅願により、平安御所北方にあたる出雲路の地に僧行基によって開かれました。開基された処に因んで、「出雲寺」と称していました。平安末期には荒廃して放置されていた出雲寺は、鎌倉初期に平親盛の手によって、平家に深い関わりのあった平等寺・尊重寺・護法寺の三寺院を纏めて再興されました。未だ寺名は「毘沙門堂」では無くて、「護法山出雲寺」と称していました。しかし室町時代に度重なって被った戦乱や火災で損傷を受けて、再び荒廃の憂き目をみました。応仁の乱で焼野原と化した京の都から移って、この地山科安朱の地に再建されたのは、江戸時代初期のことです。

天台宗の僧侶で、徳川家康と関係の深かった天海上人が復興に尽力した後、師弟公海に引き継がれて再興がなり、今日の姿になりました。又「毘沙門堂」が「門跡寺院」と呼ばれるようにたったのは、江戸時代中期の寛文期に、後西天皇の皇子であった公井法皇子が、「毘沙門堂」で受戒して晩年に隠棲したことによります。

余談です。門跡寺院とは、皇族や貴族が住持を務める格式高い寺院です。「毘沙門堂門跡」は、天台宗京都五箇室門跡の一つで、後の門跡寺院は「三千院」「青蓮院」「曇殊院」「妙法院」で、いずれも山懷に抱かれて、紅葉の美しい寺院です。門跡は「寺」では無くて「院」と称するようですね？

この寺の寺名「毘沙門堂」は、江戸時代初期に天台宗派の寺院として再建された際に、延暦寺根本中堂のご本尊である薬師如来坐像の余材を用いて、彫られた毘沙門天像に由来しています。この毘沙門天像は天台宗祖伝教大師最澄の作と伝わっています。像丈7～8cmで小さな毘沙門天像です。秘仏として寝殿に安置されています。

余談です。昨今の研究で、像に記された年号が確認され、最澄の作では無くて、中国唐朝に彫られた仏像で請來された可能性が残ります。

本殿裏に位置する靈殿・寝殿には、興味深い襖絵や天井絵を見る事が出来ます。その一つは「九老之図」で、四枚の襖絵です。襖絵に描かれてある机を見詰めて歩くと机が変化して見えます。今流行りのトリックアートの元祖です。寝殿の襖絵は、全て狩野探幽の養子益信の作です。天井絵にも面白い

絵を描き混んであります。八方睨みの「龍の天井図」と、歩くと身を振らせて付いて来る「鯉の図」です。孫たちにも見せて上げたいトリック図です。何か新しいことを考えるかも知れません。

寝殿を囲む長い廻廊の前面には、心字池を中心に中の島を懷いた「晩翠園」が広がっています、寝殿の間に座り晩翠園を眺めていると、紅葉した世界の色彩に勝る数々の音が、耳に伝わってきます。小鳥の轉り、紅葉の葉音、池の小魚の波音、雨の水音。余りにも美しい紅葉に目が奪われて、忘れていた昔の心地良さを再認識した貴重な時が過ぎました。

晩翠園の東側には、真っ赤に色付いた紅葉の木々の間から堂宇の小屋根が見えています。高台弁財天と呼ばれて多くの善男善女に信仰されています。名が示す通り、太閤秀吉公の大政所高台尼が、大坂城内で祀っていた弁財天社を移築したものです。

寺名の由来になっている毘沙門堂の本尊毘沙門天は、弁財天と同じ天部と言われる異類の仏です。明王の次に位置しています。天界に住む異類で仏法を守護しています。

余談です。仏の天界にも序列があります。如来、菩薩、明王の次が天部の順になっています。毘沙門天は天竜八部衆十二天の一つの仏です。天竜八部衆の異類は「天竜」「夜叉」「乾闥婆」「阿修羅」「迦樓羅」「緊那羅」「摩侯羅迦」です。奈良興福寺の「阿修羅像」が、天部の異類です。多く天部はインドのヒンドー教の神々に由来しています。仏教が発展する段階で順次に取り組まれ、日本に東遷する間に、インドの神々が天部の造形に変化していきました。

毘沙門堂門跡が、ご本尊として「毘沙門天」を祀ってきたことが、この寺院の寺歴にも記されているように、創建当初から糸余曲折ある歴史の中を潛り抜けてきた姿です。その時その時に再興した権力者や住持が、信仰した仏像を本尊に安置したことは想像に難くありません。当初、文武天皇が創建した出雲寺のご本尊は、毘沙門堂門跡のパンフレットには書かれてありません。

ご本尊を秘仏にしていることが賢い。本堂の折衷建築様式を見ても、毘沙門堂門跡の苦惱が理解できます。あのトリックアートが、毘沙門堂門跡の本当の姿を暗示しているように思えて仕方ありません。断わっておきますカ；、晩翠園の紅葉は自然の美しさで本物です。

毘沙門堂の堂宇を巡り終えた後は、晩翠園内を散策しながら戻ることにして園内に入りました。降っていた天気雨が止みました。山科の古刹は潤いを増し、雨で洗われた紅葉は、時々射す陽の光で美しく輝いています。お陰様で印象に強く残る紅葉美が堪能できました

本殿を後にして駐車場に戻ると、脇に藁葺き屋根の茶店がありました。疲れを感じています。がん患者にとって無理は禁物です。体調が良いと、無理な行動を忘れ勝ちです。今日旅が始まったばかりです。疲れ過ぎないのが第一です。客が誰も居ない茶店に入って、名物の湯葉饅頭を注文して一休みです。この日の夕食は二条城駅に近い湯葉専門店で湯葉尽くしの料理を堪能しました。

\*\*\*\*\*

## 文化講座・講演会・美術展

\*\*\*\*\*

### 奈良興福寺文化講座 28年12月8日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「平家物語 承前」奈良炎上

講師：興福寺副貫主 森谷英俊

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学) 文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線  
新宿駅3分)

\*\*\*\*\*

### 第77回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 12月15日(木)13:00～15:00 如水会館スターホール

2. 演題・講師 **『日本の戦後を反省する』**

ケント・ギルバート氏 カリフォルニア州弁護士 著述家

3. 申込・会費 E/Mail：[shinsanmokukai@gmail.com](mailto:shinsanmokukai@gmail.com)

TEL：047-464-4063

フルネーム・卒年・所属 (例:一般・紹介者名)

会費:2000円 婦人1000円 学生無料

茶話会:15:15～14:20 千円 (自由参加)

4. ホーム <http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告

● 1/19, 第78回 **『天皇の世紀を生きる』**

保阪正康氏 日本近現代史研究家

佐藤勝彦氏 宇宙物理学者『宇宙は無から生じた』は延期します。

● 2/16, 第79回 古森義久氏 国際問題評論家

産経新聞ワシントン駐在編集特別委員

『新大統領下、米国の今後の方向』

● 3/16, 第80回 秦郁彦氏 現代史研究家

『昭和史の争点』(仮題)

\*\*\*\*\*

### すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内110-2 ベルデュール103

◆電話、メールは変わりありません◆

Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739

メール [info@sudoh-art.com](mailto:info@sudoh-art.com)

## すどう美術館 コレクション パート 2

会期 10月7日（金）～12月26日（月）

開館時間 10：00～17：00 火曜定休

入館料 500円（小学生以下無料：保護者同伴）

会場 箱根芸術空間 風伯

〒250-0311

足柄下郡箱根町湯本 540-4

Tel 0460-85-7440

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

### <事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号  
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

### <投稿歓迎><図書の推薦依頼>

### <プリント版・郵送>

メール版（無料）を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくださいれば送ります。その際には、実費として1月350円（4200円/年）をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 振込先：三井住友銀行「神田支店」（普通）7871532  
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・437号

発行：2016年11月30日

：天地シニアネットワーク事務局（津田 幸人）

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室  
TEL・FAX 03-3837-0290  
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp  
URL <http://www5a.biglobe.ne/~tenti/>